

自主創造

2019年7月10日

第4号

校長 根路銘 敢

学校教育目標

- 「生きる力」の育成
- 「頭」を鍛える
- 「心」を鍛える
- 「体」を鍛える

子どもに火をつけたい！

1学期の終わりにあたって

夏の強い日差しに照らされた木々の緑が鮮やかに、そして、とても眩しく感じられます。夏本番となりました。これからさらに厳しい暑い日が続きます。皆様、熱中症にはくれぐれもお気を付けください。

さて、ウィリアム・アーサー・ウォード(1921年～1994年)という方をご存じでしょうか。アメリカ・ルイジアナ州出身の作家、牧師、教師として活躍された方ですが、彼は次のような言葉を残しています。

The mediocre teacher tells. (普通の教師は、子どもに指示をする。)
 The good teacher explains. (良い教師は、子どもに説明する。)
 The superior teacher demonstrates. (優れた教師は、子どもに自らやってみせる。)
 The great teacher inspires. (偉大な教師は、子どもの心に火をつける。)



私がこの言葉に初めて出会ったのは、保健体育の教師として日々生徒に教科を

指導し、野球部顧問として生徒とともに汗を流していた頃のことです。この言葉から、私は生徒の心に火をつける、つまり、生徒の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲をもたせることの大切さを学びました。そして、それを実践すべく努力すること、少しでも「The great teacher」に近づけることができたらと思ったものです。

さて、この言葉ですが、「教師」を「親」にしてみたらどうでしょうか。そこに、子育てをする際の、とても大切なヒントがあるように私は思っています。

- 普通の親は、子どもに指示をする。
- 良い親は、子どもに説明をする。
- 優れた親は、子どもに自らやってみせる。
- 偉大な親は、子ども心に火をつける。

と思っと思っています。「やる気にさせる」「コツは、「誉めること」と「叱ること」のバランスだと思いません。通知表に書かれたことから、この1学期に頑張ったことをみつけ・認め、誉める、今学期は残念ながら反省すべき点があるならば、そこはしっかりと反省するように指導する。そのバランスを親がしっかりととることです。ぜひ、「やる気にさせる」「働きかけをしていきましよう。その先にあるのが、「生徒の笑顔が、真志喜中の太陽」に繋がっていきます。間もなく、待ちに待った夏休みが始まります。有意義な夏休みをお過ごしください。8月26日の始業式には全員が元気に「やる気に満ちた表情」で登校してくれることを楽しみにしています。1学期、ありがとうございました。

平和集会へ比嘉涼子氏をお招きし



去る6月14日(金)に、平和学習の一環として、地域ガイド風の会から比嘉涼子氏を講師としてお招きし、演題「沖縄の過去・現在・未来をみつめて」戦跡から学ぶものについてご講話いただきました。

生徒達は、皆、真剣な表情で、比嘉氏のご講話を聴いていました。

「いじめをしなさい。」「相手を思いやる言葉をかける。」など、人権を大切にすることが平和な時を過ごすことに繋がります。また、戦争経験者が高齢化を迎えた時代だからこそ、沖縄県民は、今(現在)こそ辛い過去を語り

継ぐことで二度と戦争を繰り返してはならない。そして、「命どう宝」を、後世(未来)に繋いでいくことが大切であることを強く再認識しました。

学習会の最後は、全員で「月桃の花」を歌い、恒久平和をみんなで祈念しました。

以下に、生徒の感想文を紹介します。

平和は、「知りたくない」「守りたい」「伝えたい」の3つを一人一人が思うことで、維持、より良くなっていくのだということを学びました。また、ガマの私たちの集団自決の話を知り、間違った教育の怖さと恐ろしさを学びました。

私たちは、命の危険も感じず、平和ばかりしていると思えます。そんな私たちができることは、一人一人が3つの言霊を思い、平和を創造していくことだとい



(2年2組与那嶺萌音)

ことに改めて気づかされました。

(3年3組比嘉希颯)

私は、比嘉涼子先生の話を聞いて、もっと沖縄戦のことを知って、これからの私の人生に役立てたいと思いました。沖縄戦では、4人に1人がなくなる確率で、20万人以上も亡くなって、人間が人間でなくなってしまうんだと思いました。そして今、私たちが生きられていることに感謝して、生きることができなかった人のためにも一生懸命頑張りたいと思います。そして、いつも周りに感謝しながら生活していきたいと思っています。